

当院心臓血管外科における診療看護師(Nurse Practitioner)の活動報告

【目的】当院における診療看護師の導入目的と活動の報告【背景】心臓血管外科領域では、国内において手術実施施設が分散しているため海外と比較して1施設あたりの手術実施数が圧倒的に少なく、心臓血管外科医の技術習得に相当な時間を要するのが現状である。当院では2013年10月から新規に心臓血管外科を立ち上げ、診療開始後の9ヶ月間で154例の心臓/大血管手術を行ってきた。外科医の技術向上には手術症例を増やすこと必要だが、症例数増加に伴って必然的に周術期の業務量が増加する。診療看護師を導入することで手術中であっても病棟業務への迅速な対応が可能であり患者利益とチーム医療の機能向上につながり、外科医は集中して手術に臨むことができる。【結果】本邦では2008年よりチーム医療をより充実させる目的で看護師の業務拡大検討がなされてきており、当院は厚生労働省主導のモデル事業に参加し診療看護師が活動を行っている。当科における診療看護師の臨床現場での活動としては、入院前外来・入院中・退院後外来のすべての場面で一貫して診療補助にあたっている。手術決定患者の入院指示・手術申し込み・術前検査のオーダーはすべて診療看護師が行い、さらに病棟での代行処方・処置も可能な範囲で行っている。また、診療看護師は医師と看護師間の円滑なコミュニケーションにも大きな役割を担っている。【結語】診療看護師導入により外科医の手術以外の業務負担が軽減され、より効率的なチーム医療が実践できている。